

マルワゴーン 静脈の町の屠禽場

山形洋一

ヤンゴン中央駅から環状線を反時計回りに進み、2つ目の駅がマルワゴーンだ。

「マルワ」(Ma Hlwa) はノウゼンカズラ科の植物で、黄色の葉が食用にされる。学名 *Markhamia stipulata* (Wall.) Seem. Ex K. Sc.だが、かつては *Dilochandrone stipulata* Benth と呼ばれたこともあり、その旧学名 *Dolichandrone* が、そのまま英語名になっている。

マルワゴーン駅のすぐ西側を流れるクリークの土手が、廃品の集積所になっているせいか、町全体が煤けて見える。だがゴミは溜まりすぎることなく、いつも適度に片づいている。ゴミ運搬用の手押し車が並んでいることもあり、ここは静脈の町。動脈のように派手に脈打つことはないが、粛々と大仕事をこなしている。若者が下水に浸かって泥の中から何かを拾う風景も、近くで見られる。

駅は環状線 2 本とマンダレー方面路線 2 本のために、2 基のプラットフォームを備え、南のヤンゴン (中央) 駅、北西のインセイン駅について重要な鉄道管理拠点となっている。駅南東には操車場があり、さまざまな貨車が留め置かれ、退避線 (Siding) の数に合わせて旧式の転轍機が並び、木の枕木も残っている。駅の脇には機関車整備場 (Loco Shed) や貨車・客車の車庫 (Coach & Wagon Shed) があり、奥にはターンテーブルもある。いささか古いデータ (JICA、1987) によれば、11 班 110 人の保安員の詰所や、マンダレー方面とマルタバン方面行きの運転手の詰所もあり、人員面でも重要な拠点だ。鉄道ファンには興味が尽きないだろう。

「鉄っちゃん」ならぬ普通人にとって見るべきものといえば、「家禽市場」(チェッ・ペー・ゼイ、Chicken & Duck Market) だろう。場所はパズンダウン・クリークのヘアピンカーブ付近で、タマイン・バヤン道路とタントゥマー道路の三叉路の東にある。ただし極度にけがれを嫌う人や、心臓の弱い人にはお勧めできない。